

○呉羽地区タウンミーティング議事録

日 時：令和7年10月26日（日）

午前10時から11時50分

場 所：呉羽会館

出席者：26人

テーマ1 富山市のスポーツ施策について

<主な説明事項>

- 1 富山市の現状
- 2 富山市スポーツプラン

【市民生活部の説明に対する質問】

（呉羽地区自治振興会長）

・スポーツの拠点づくりについて、呉羽地区にある屋内スポーツ施設は花木体育センター1箇所のみですが、健康や交流目的のためのスポーツ教室が多数実施されています。老朽化が激しく、改修要望等を実施しようかと思っているところです。建て替えは難しいと思っており、内部の改修だけでもお願いしたいと思っていますが、改修計画があるのかをお聞かせいただきたいです。

（市民生活部長）

具体的な改修計画は持ち合わせておりません。できるだけ長くご利用いただきたいことから、修繕が必要になった場合には、速やかに対応していくということをお願いしていきたいと思います。大規模な改修が必要になる場合、維持できるかということについては、基本的には難しいと考えておりますので、丁寧に使いながら1

日も長く利用できるようにしていきたいということでご協力いただきたいと思っております。

・頭脳を使ったスポーツについてお聞きします。eスポーツやマインドスポーツ、例えば囲碁、将棋、麻雀、オセロ等がありますが、お年寄りには体を動かしづらいので、頭脳を使ったスポーツの展開について、今後どのように考えていらっしゃるでしょうか。

（市民生活部長）

市民生活部といたしましては、今のところ、体を動かすスポーツを中心に紹介させていただいております。eスポーツも当然、メジャーなスポーツとして認知されてきていると思います。例えば、介護予防も含めて、各地域で様々なセミナーといった取り組みや運動をやっておられるとお聞きしておりますので、福祉保健部等の事業として、今後も地域主体でやっていただき、体力づくり・フレイル予防という形で取り組んでいただきたいと思います。

（企画管理部長）

補足させていただきますと、現在、市民生活部では、体を使ったスポーツを中心に施策を展開しております。例えば、健康マージャンですと、福祉保健部の長寿福祉課で大会の支援などを行っております。囲碁・将棋につきましては、文化振興の分野に含まれるかと思います。eスポーツについては、最近身近になってきていると思います。市役所の中では、直接的にeスポーツについては取り組んでいませんが、今後、まちづくりの中での施策の展開も含め、市役所の方でどうやって事業を行っていくか考えていきたいと思っております。頭脳を使ったスポーツについても、どの所属でとりまとめて施策を行っていくかということも今後検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

①高齢者のスポーツライフの推進について、どのくらいの人が参加されていますか。
何年も繰り返し開催されていると思いますが、参加者が少ないものに対しては、何か違う施策を考える等、取組を検討されているのかお聞きしたいです。

②アスリートの方々を呼んで子どもたちに教育することは、大変素晴らしいと思います。富山市の小学校全てにローテーションする形で回っているということでしょうか。

③グラウジーズについては新しいバスケットスタジアムができますが、サンダーバースやカターレへの支援については、富山市としてどのような考えを持っているのかお聞きしたいです。今後人口が減っていく中で、財源も減っていくというお話がありましたので、どう考えていらっしゃるのかお聞きしたいです。

(スポーツ健康課長)

①高齢者のスポーツ教室に関しては、基本的には富山市からスポーツ協会に開催をお願いして実施していただいているものです。年間を通じて開催していただいているのですが、資料を持ち合わせていないため、後日回答させていただきます。だいたい1回あたりの参加人数は20～30人程度で、年間10回程度開催しています。

②トップアスリート事業についても、スポーツ協会に実施していただいています。年間4名程度のトップアスリートをお呼びして、学校の教室に回る場合もありますし、場所を借りて開催する場合もあります。今年度については、プロスノーボーダーの広野あさみさんをお呼びして講演会を開催したという実績があります。全ての学校に回るわけではありません。

(市民生活部長)

③プロスポーツへの支援につきましては、グラウジーズのホームコートとして、富山市総合体育館のリニューアルをしております。サンダーバースやカターレについては、それぞれ見るスポーツの推進ということで、ホームコートはグラウジーズの

みを支援している形ですが、例えばカタールは、県の総合運動公園を拠点として頑張っておられますし、それぞれ支援できる団体がバックアップをしております。富山市とすれば、市民一丸となって応援する機運を作ろうということで、見るスポーツを推進するという形で、今後もしっかりと応援していく所存でございます。

(市長)

補足させていただきますと、人口 100 万人の県にプロスポーツが 3～4 つもあっても、全部を支えることができません。関東や関西、中京圏のようにビッグスポンサーがつけば可能なのですが、県内のチームは、県内の企業で少しずつ支え合うのが主流で、それを行政がお手伝いしています。グラウジーズの場合は、B プレミアに参入するために非常に努力され、B2 に落ちたけれど、また B1 に這い上がったり、選手も補強したりそれを企業が支えたり、県民市民が応援に足しげく通い、1 試合 4,500 人以上の高いハードルをクリアしました。このようなことがたくさんある中でスポーツは盛り上がっていくと思います。我々としては、野球、ハンドボール、バレーボール、陸上等、全てのスポーツを一生懸命応援していますが、富山県の人口は 100 万人、富山市の人口は 40 万人ということで、支えきれません。県のスポーツ施設を使ったり、サンダーバーズは本拠地が富山市だったところを高岡市に移動されましたが、県や高岡市も含めて我々も応援しています。それぞれのスポーツチームが元気に活躍していただき、それによって県民が元気になるように、これからも支えてまいりたいと思っています。

(呉羽地区社会福祉協議会長)

・高齢者を対象にした色々な取り組みがありますが、これから問題になってくるのは、元気なお年寄りではなく、もう足腰が弱っていて車にも乗れないような人たちを対象にした健康づくりであり、健康寿命の延長が課題になっていると思います。町内を出なくても行うことができる健康維持対策が必要だと思います。呉羽地区で

も、お年寄りを対象としたふれあいサービスが40ほどあり活動していますが、趣味を中心とした集まりになっています。長寿会を中心にした町内会ごとの取組が大事になってくると思い、色々呼びかけています。町内を出ることができないお年寄りを対象にした活動について、もう少し力を入れていただき、助成やサポートをお願いしたいです。例えば、体操の指導者、楽しみながら健康づくりをするインストラクターについて、良い人を呼びたいけれどなかなかいないという悩みを持ちながら取り組んでいます。町内を出られない人たちに対する健康維持のための助成や施策について、もう少し力を入れて考えていただけたらと思います。

(企画管理部長)

今ほどおっしゃっていただいたのは、フレイル予防に対する取組の支援ではないかと思っております。担当は福祉保健部でございまして、本日は来ておりませんので、福祉保健部に伝えてまいりたいと考えております。福祉保健部では、フレイル予防・予防介護といたしまして、様々な取組を行っております。閉じこもり予防として、なかなかご自宅から外に出たがられない人への支援も取り組んでおりますし、介護予防事業として、フレイル予防の各地域での取組の支援も行っております。様々な取組を行っておりますので、長寿福祉課や介護保険課にご相談いただき、支援を受けていただきたいと思っております。

・総合体育館のフィットネスルームについて、自分も利用していましたが、呉羽地区にはスポーツ施設があまりないので、富山市民芸術創造センター内にフィットネスルームを作ってもらえないでしょうか。ウォーキングマシーン、トレーニングマシーン等を置いてもらえれば、若い人に人気がありますので、学生ならば相撲、柔道、野球部等の人たちが利用されると思います。場所としては、旧呉羽保育所の跡地や、旧呉羽幼稚園の跡地等が良いと思います。

(市民生活部長)

お近くに運動施設があれば便利だろうというご提案だと受けとめておりますが、市としては、どうしても限られた財源の中でどう運営していくかということを色々と考えた末の設置場所ですので、既存施設の中に新たに運動施設を併設するということは、現状では考えておりません。今ある施設をどうやって維持していくのか、次の世代に機能をどう引き継いでいくのかということに注力してまいります。ご不便おかけしていることは承知しておりますが、ぜひとも現状の施設で利用していただきたいと思います。

テーマ2 新たな富山市都市マスタープランについて

<主な説明事項>

- 1 都市マスタープランの概要
- 2 全体構想
- 3 地域別構想
- 4 今後の進め方

【活力都市創造部の説明に対する質問】

・公共交通を中心としたまちづくりの発展については、とても賛成しています。これには、官民連携による力強い発展が欠かせないと思います。私が酒蔵の社長をしているときに行事があり、城端線JR西日本と交渉して本数や車両を増やすと、たくさんの人が利用していました。例えば民間企業の力を借り、官民連携の中で利用していかなければ、都市マスタープランも、人口減少に関する課題もなかなか解決しないのではないかと思います。どのようにお考えかお聞かせいただきたいです。

(活力都市創造部長)

官民連携につきましては、おっしゃられた通り、これなくしては富山市が進めるまちづくりというのは決して進まないだろうと思っております。例えば公共交通で言いますと、富山市だけでやってるということではなく、まちづくりのパートナーである富山地方鉄道さん、ＪＲ西日本さん、あいの風とやま鉄道さん、こうした方々と色々な協議をしながら進めているところでございます。今後につきましても、しっかりと民間の事業者さんとも色々な議論をしながら進めてまいりたいと考えています。

(老田地区自治振興会長)

新駅のことでお聞きしたいです。老田地区は、活性化のために新駅の設置を要望しております。新しい都市マスタープランの「まちづくり方針図」というところについて、今まで載っていた新駅構想が今回は消えています。新駅の設置について、富山市はどのように考えているのかお聞きしたいです。

(活力都市創造部長)

願海寺駅の新駅の設置について、ご要望をいただいております。当然ながら認識しております。新駅の設置というのは、鉄道事業者さんの経営に直接関わる大変重要な判断の部分であり、基本的には、鉄道事業者さんの判断によるところでございます。既存事業者さんが新駅を設置するという方向性が示された場合には、その効果を検証しながら、富山市としてもこういった支援ができるかを考え、判断したいと思います。前回の都市マスタープランを作ったときには、富山県の方で調査中というところがございまして、まだ方向性が見えなかったため記載しておりましたが、今回は、あいの風とやま鉄道さんも設置は難しいという判断をしておられるということで、今回は載せていないというところでございます。

(続き)

・老田地区としてはこれからも要望していくつもりですが、今までずっと載せていたのに消えているということは、もうなくなるという危機感をもっています。ぜひ新しい都市マスタープランにも入れて欲しいです。

(呉羽地区自治振興会長)

・地域からの要望事項としまして、市や県の方への要望の中には、常に新駅に関して要望しています。市長要望の中にも入れていますし、県知事要望の中にもきちんと入れてもらっておりますので、あいの風とやま鉄道さんに難しいと言われたからということではなく、継続して色々な要望書は出させていたいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

・呉羽は良いところで住みやすいと思いますが、資源がうまく使われていない部分があると思います。その1つが呉羽駅です。コンビニが1つありません。富山駅から5分で来られる重要な駅ですが、このような駅でコンビニがないのは全国でも他にはないのではないのでしょうか。北口が開発されて便利だと思いますが、多くの人が南側に住んでいます。例えば、駅の2階に改札を作れば、一体的な動きができると思います。

(市長)

大変ありがたいお言葉をいただいたと思います。確かにお声をたくさんいただいています。日夜努力はしていますが、鉄道事業者や民間のコンビニ事業者等を含めて、たくさんの働きかけが必要ですし、さきほど民間の活力のお話がありましたが、民間事業者に声かけをしています。採算が合わないのです。色々な方法があると思いますので、いただいた意見を活かしながら、前向きにやっていきたいと考えています。今後とも引き続きご意見をいただきますようお願いいたします。

①地鉄のバスについてですが、廃線になってしまい便利になりません。富山市からの補助等は考えていらっしゃいますか。

②呉羽地区は、冬の雪道の状態が悪いと思います。20～30年前に八尾地域や婦中地域方面へ通勤していたことがあります。富山地域は除雪の状態が悪いと痛感しました。空き家が増え、高齢化が進んでいますし、冬の雪道を安全に歩いたり車の運転をしたりできる環境を整えてほしいです。そのために、消雪装置を付けてほしいと思います。私が住む町内には、幅6mを超える中央線がある幹線道路がありますが、どうやったら消雪装置を付けてもらえるだろうかと話しています。町内に消雪装置を付ける場合、市からの補助は約50%ですが、補助率を上げてもらうことはできないかと話が出ています。

③「質の高い生活」という表現がありましたが、私たちも質の高い生活をしたいと思っています。中心市街地には中心市街地の考えがあると思いますが、郊外にも自分たちの思いがあり、自分の住んでいる場所こそ住みよいという思いがあります。呉羽地区も何があればもっと住みよくなるかという観点で進めてもらえないでしょうか。

④呉羽地区は、空き家が増えています。20年後、今と比べて呉羽地区の人口はどのくらいになるのか予測をお聞かせいただきたいです。

(市長)

①地鉄バスについては、市と県で協調し、国の補助金も入れながら相当な額を手当して、乗客が乗ってなくてもバスを走らせることはできます。ただ、運転手さんがいないのです。県と市で運転手さんに就職していただくためにリクルート活動を手伝っていて、都会から呼んでくる等していますが、なかなか来ず1割程度欠員の状態です。何とか運転手を確保して廃線にならないようにしたいと思います。また、市民の皆さんにたくさん乗っていただけるよう、使い勝手の良いダイヤに組み替えていくなどしていきたいと思います。

②呉羽地区は、道のアップダウンがあり元々狭いですね。消雪装置は1つの方法なのですが、水が少ないという面もあります。どのように解決していくか、私たちも問題にしています。自治会長さんもたくさん来ておられますし、住民の皆さんのお声があるということで、道路の安全は冬を含めてしっかり確保していきたいと思います。

③質が高い生活についてですが、私は婦中町千里の田んぼの真ん中に住んでいますが、とても質が高いと思っています。四季がはっきりして、とても良いところです。雪がたくさん降りますが、雪を楽しんでいます。自分で除雪もしますが、年を取るをどうなるかなというところもあります。

呉羽は本当に質が高いと思います。富山市芸術創造センター、桐朋アカデミー、呉羽高校がある等、このようなところは他にはなかなかないと思います。歴史もあり、呉羽丘陵、富山市の施設も多くあります。梨、りんご、ネギ、芋もあります。それぞれの地域に、それぞれの特性を活かした暮らしがあると思います。中心市街地について質が高いというのは、一般的に見て、高度な生活様式が整い、便利なのが手に入り快適さが味わえるということだと思います。呉羽にも千里にも、それぞれの質の高い生活があり、単純に比べるものではないと私はと思っています。

(都市計画課長)

④呉羽地区の人口の推計についてお答えいたします。2023年(令和5年)時点の呉羽地域の人口は、約2万3700人となっております。20年後の2045年(令和27年)の人口は、約1万9600人と推計しております。ですから、4000人ほど人口が減ると推計しております。

①電車を利用して買い物することについて、富山市には商業施設があって魅力的なものができてきており、八尾や大沢野、大山から行きたいという人が増えていると思いますが、人口が増えている富山市から八尾や大沢野、大山へ行きたいという人

が少ないのは、魅力が少ないからだと思います。八尾、大沢野、大山に行きたく
なるような、富山市に負けないような商業施設や観光施設を設けないと、買い物のためには電車を使わないと思います。今後、人口が減ったとしても、通学や通勤のために富山市に行く利用だけになってしまうというところが、今のマスタープランの中で抜けているところだと思います。

②人口が減っていることは分かるのですが、人口を増やすことについて検討は進んでいるのでしょうか。働く人たちが減っていくという資料も見ましたが、おそらく富山市に働く場所がないからだと思います。若い人たちが働くところ、例えばITだとハードウェアセンター等が誘致できれば、結構な割合で人口が増えますし、若い男女が増えれば、家族連れでいずれ移住してくれるということが考えられると思います。人口が減ってはいきますが、人口減少の推移を減らすことができるのではないのでしょうか。

③団子上で書かれているところで、大沢野・大山地域と富山地域の間の辺りで、団子が結構ないと思います。私もそこに住んでおり、できれば、大庄地区や月岡地区も団子上に含めていただきたいと思います。なぜなら、大庄地区は子どもが多いですし、ファミリー層も多いです。上滝地区だけではなく大庄地区も入れていただき、コンパクトシティ構想に入れていただきたいと思います。大庄地区は、アメイジングトヤマのところにも選ばれていましたので、ぜひお願いいたします。

(活力都市創造部長)

①買い物や行きたくなる施設についてですが、商業施設を大きく分けると、買い回り品と身の回り品があると思います。買い回り品の買い物をするためには、施設が市内各地に色々あるということは、中心市街地の商業施設の衰退を招いてしまうことになると思いますので、集客の大きな施設は、限られた中心市街地に集めたいという考え方が1つございます。それ以外の日常生活に必要な買い物の部分は、各地域の団子の中にあるのが形としてはよいのではないかという考え方です。

②人口減少に対する検討については、富山市の方でも進めております。今年度から、人口減少と少子化に対するプロジェクトチームのようなものを作って進めております。始まったばかりですので今日この場でお話はできないのですが、検討を始めているところです。

③大沢野・大山地域と富山地域の間の部分に団子がないことについてですが、基本的には、都市計画上の用途地域が設定されているところをまちづくりにおける団子に位置付けておりますので、図面上では表していないということでございます。

【その他意見交換】

(呉羽地区自治振興会長)

①呉羽駅北側の開発によってにぎわいが創出され、非常に活性化されています。本当にありがとうございます。ただ、公共道路が追いついてきていません。高木10号線、呉羽中沖線との交差点は、非常に見通しが悪く、先日初めて車同士の接触事故がありました。交通量が激しくなっていますので、道路の拡幅を早くお願いしたいと思っております。老田地区への延伸についても計画されておりますので、早期開通をお願いします。

②呉羽駅の左右両側に踏切が1ヶ所ずつあります。時間帯によっては開かずの間になるということもありますし、通学路で交通量が多いため非常に危険性が高いです。駅の高架橋のところを、何かパスを利用しながら通学させてもらえないかという要望がありました。日吉社長のときに直接1度要望をさせてもらったのですが、自治会の方で安全確認をきちんとした身元調査ができれば不可能ではないとの話がありました。できるのであれば、どういう方法でやればいいのかを相談させていただきたいと思っております。

一般市民からは、南北の通行ができないかという要望が非常にあると思いますので、あいの風とやま鉄道さんからは難しいことを言われますが、富山市としてもご協力をお願いしたいと思っています。

(市長)

①高木 10 号線と呉羽中沖線の交差点は、私も先日現地視察しましたが、その後の事故だと思います。確かに見通しが悪くて狭く、なかなか危険な交差点であるということは把握しております。建設部も把握しておりますのでしっかり進めて参りたいと思います。老田地区への延伸は、しっかりと進めていきたいと思います。

②あいの風とやま鉄道の高架橋の利用については、駅利用者との住み分けだけだと思います。地域からの要望を今回また受けましたので、我々もあいの風とやま鉄道とは再度確認をしてみます。なかなか難しいということは分かっていますが、再度確認や協議はしたいと思います。

・富山市が、ニューヨークタイムズ紙の「2025 年に行くべき 52 か所」に選ばれたことは大変光栄なことだと思います。市長が色々とPRしてこられた成果もあると思います。ただ、金沢市と比較しますと、住みたいまちという点では負けてしまうと思います。金沢に負けない富山市の魅力は何か考えていけば良いと思います。文化や教育等、ぜひ、金沢市に負けない富山市ということを意識して進めていっていただきたいです。

(市長)

ありがとうございます。ご要望を励みに頑張ってまいります。

・政治家の方は、公助・共助・自助という言い方をされますが、共助についていうと、町内会で民生委員を探すのも大変で、見つからなかったら町内会長がやれということになります。町内会はボランティアでやっています。共助というと町内会を通したことばかりという印象を持っています。市や政治家の方は、共助の担い手について、具体的にどのようにお考えなのかお聞かせいただければと思います。

(市長)

私が小さい頃は町内会がしっかりしており、「向こう三軒両隣」でやっていました。両親が商売しており朝6時から晩11時まで働いていて、きょうだい4人は、親戚でもない隣の家でご飯食べさせてもらい風呂に入れてもらっていました。パンツやシャツも、隣の家のお兄さんの名前が入ったものを使って育ちました。昔はみんなそうだと思います。これは共助だと思うんですね。

現在は核家族が進み、町内会だとか「向こう三軒両隣」ということがどんどん薄くなっています。今おっしゃった通り、町内会がやってくれということが非常に多くなり、町内会が負担することが多くなっています。行政や政治家としては、反省することが多いのではないかと思います。民生児童委員や、市からお願いしている役がありますが、どうしても受け手がいなかったら、お願いするしかありません。もう回覧板を配りませんというところもありますし、自治振興会では空き家調査をしませんというところもあります。これはお願いですから、でも一番困るのはその町内会や自治会です。空き家調査をしなかったら、自分たちの周りにどんな危険があるか自分たちで把握できないことになります。ですから、こういうことも考えていただきたいと思います。政治や市役所も、住民の皆さんのご負担やご苦勞をしっかりと把握し声をしっかりと聞くことが必要だと思います。住民の皆さんも、無理なことは無理だと言ってもらいたい、できることをやっていただきたいと思います。できる限りできることをやる、共助というのはそれでいいと思います。無理をしてあれもこれもやるというのは、これからの時代にはそぐわないと思います。

富山市の行政は、最終的には町内会、班、自治振興会でもっていますので、できる限り、中堅の方々や若い方へ引き継いでいっていただき、その地域が続いていくように、また皆さんのお力をお借りしたいと思っています。今のご意見も心して進めてまいりたいと思います。

①呉羽に住んで23年程度になりますが、冬の雪が酷い時はバスはなかなか来ず、

以前は歩道の除雪がされていなくて仕事に行けず休んだ日もあり苦労しましたが、3～4年前からは除雪されていて大変助かっています。これからも、朝早くから除雪していただければ、通勤や通学に通る人がとても助かると思うので、よろしくお願いします。

②スポーツ施設について、富山市内には58施設あり老朽化が進んでいるとのことですが、能登半島地震の際には、被害があって実際に直したところはあるのかお聞きしたいです。

(市長)

①県道路線の呉羽山の堀切の歩道除雪等につきましては、県道と市道が続いていますので、県と市で連絡を取りながら行っています。すごく良くなったというお褒めの言葉も含めて県にもお伝えしますし、除雪の業者にも伝わるようにしたいなと思います。バスが来ないことについては、なかなか仕方ないことだと思いますが、本当にその通りだと思います。

②スポーツ施設は、能登半島地震の際に被害を受けたところはいくつかあります。壁の剥落、床のひび割れ、周りとの段差が生じた等色々あると思いますが、壊滅的な被害はなかったと思います。ただ、富山市の体育館は旧耐震でやっていますので、最新式の耐震、例えば天井等も含めて新しくなりますので、能登半島地震のような地震でも被害を受けないような施設に生まれ変わると思います。

スポーツ施設以外では、道路、橋、市役所本庁も被害がありました。まだ直していないところもありますが、道路や橋については、もう98%以上直っています。県と協力しながら進めています。液状化したところは、これからしっかりサポートしてまいりたいと思っています。

①電車利用について、どの年齢層をターゲットにしているのか気になります。私のイメージとしては、富山で電車を利用するのは、免許を返納した高齢者や学生が大

半かなと思います。車を持っている人は車で移動するというのが現状だと思います。
免許を返納した高齢者や学生の方が便利に利用できるような形を作っていくべき
ではないかと思います。若い人達が電車を使って、八尾・大沢野・大山等に行くこ
とをどうやって進めていくかということが富山市の課題だと思います。

②先ほど金沢市と富山市の比較についてお話がありましたが、私が気になることは、
金沢市は室内遊具施設が結構多いのですが、富山市には数えるほどしかないという
ことです。夏は暑く、冬は豪雪で、今はクマが多くて外で遊べないこともあり、外
の遊具施設があったとしても遊べないという子どもたちが多くなってきており、室
内遊具施設を作っていかなければならない状態だと思います。街なかは大丈夫かも
しれませんが、郊外はクマがたくさん出ますので、ぜひ室内遊具施設を作っていた
だきたいです。

(活力都市創造部長)

①電車利用のターゲットについてですが、電車に限らずバス等も含めた公共交通は、
実際に使われているのは中高校生の学生さんと高齢者の方になります。そうした方
に向けましては、例えば高齢者の方についてはバリアフリーに配慮しています。学
生さんについては自転車の駐輪場が必要になってくると思います。そういったところ
にも目を向けながら整備を進めていきたいと思っています。

(市長)

②室内遊具については、確かに冬は長く夏は暑いですし、富山に必要なところもある
と思いますが、金銭的な面もあり、なかなか今すぐ作るということは叶わないこ
ともありますから、既存施設を何とかできないか等、色々と検討していきたいと思
います。市内で子どもが遊べる空間が欲しいという声をたくさんいただいています
ので、しっかりと受けとめたいと思います。

・人口減少についてですが、東京都をのぞいた全ての道府県で人口が減少している
そうです。ある経済評論家は、人口減少はこれからメリットになるのではないかと
話していました。A I 技術が導入され、単純作業は全てA I に変わっていくという
ことです。そうすると、人口が多いところは単純作業しているので職がなくなって
しまいますが、日本のように人口が少ないところは、A I に対応したようなシステ
ムを作れば成長していけるのではないかと話していました。これは、どこの都道府
県でも考えていかなければならないことだと思います。人口減少をメリットに展開
できないかという対応を今後考えていかなければいけないと思います。

(市長)

人口減少への対応や少子化への対応は非常に大事ですので、A I の活用も含めて
今後考えてまいりたいと思っています。富山市の場合、コロナの一時期を抜かすと、
流入人口はずっと増加傾向にあります。ただ自然減については、1 年間で 3000 人
程度となっています。流入超過が 300 人前後ありますので、緩やかに減っている都
市の典型です。周辺の市町村や他の地方都市はもっと減っています。

こういった中で、私たちはどのように人口減少対策するのがやっぱり一番大き
な課題なので、A I の活用やデジタル化も含めて、また考えてまいりたいと思いま
す。

※発言の一部を整理して掲載しています。(広報課)